

平成31年度

青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、平成31年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月8日(金)に実施し、8,670人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には15点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、国語が2.9点上回り、社会が0.8点、数学が3.9点、理科が8.5点、英語が4.8点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「平成31年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	1	0.0	13	0.1	1	0.0	3	0.0	8	0.1
90～99	78	0.9	531	6.1	28	0.3	70	0.8	446	5.1
80～89	693	8.0	1,200	13.8	120	1.4	389	4.5	767	8.8
70～79	1,795	20.7	1,508	17.4	394	4.5	700	8.1	944	10.9
60～69	2,236	25.8	1,505	17.4	1,063	12.3	1,175	13.6	1,298	15.0
50～59	1,900	21.9	1,326	15.3	1,793	20.7	1,463	16.9	1,450	16.7
40～49	1,135	13.1	1,023	11.8	2,003	23.1	1,647	19.0	1,430	16.5
30～39	577	6.7	802	9.3	1,467	16.9	1,491	17.2	1,291	14.9
20～29	202	2.3	512	5.9	989	11.4	1,100	12.7	727	8.4
10～19	44	0.5	218	2.5	543	6.3	535	6.2	280	3.2
0～9	6	0.1	29	0.3	266	3.1	94	1.1	26	0.3
0(再掲)	0	0.0	0	0.0	15	0.2	1	0.0	0	0.0
全教科受検者数	8,667	100.0	8,667	100.0	8,667	100.0	8,667	100.0	8,667	100.0
平均点	60.4		60.4		44.1		47.0		54.4	
標準偏差	14.9		20.5		17.4		19.1		20.6	
最高点	100		100		100		100		100	
最低点	6		2		0		0		2	
前年度平均点	57.5		61.2		48.0		55.5		59.2	

*得点一覧表の各教科の値(%)は、全教科受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

国 語

①の放送による検査は、生徒の発表と質疑応答を、資料を見ながら聞き、内容や発表の仕方を捉える力、聞き取った内容をもとに条件に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)は、和語・漢語・外来語を勉強したときに感じたことについて聞き取る問題であり、正答率は約8割であった。(2)は、和語の魅力について聞き取る問題であり、正答率は約6割であった。「優しさや華やかさ」という必要な情報が不足しているために減点されているものが多かった。(3)は、発表の仕方について考えて聞き取る問題であり、正答率は約7割であった。(4)は、「木枯らし」を使って、時候の挨拶を考えて書く問題であり、正答率は約8割であった。話の中心部分と付加的な部分とを考えて、要点を整理しながら聞き取る力が求められる。

②は、漢字の問題である。(1)の読字の正答率は約7割であり、誤答として、イ「ききやく」を「はいきやく」、「はいきよ」などと読んだものが多かった。書字では、ク「根幹」を「根関」、「困惑」など、同じ読み方の別の漢字で書いた誤答が多く、正答率は約3割であった。(2)は、文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ問題である。ア「就く」の正答率は約9割であった。イ「丘陵」は、「1 緩急」や「3 宮殿」を選んだ誤答が多く、正答率は約5割であった。文脈に合わせて正確に判断し、適切に用いる力を養うとともに、語彙を増やすことが大切である。

③は、『玉勝間 (たまかつま)』からの出題である。(1)は、歴史的仮名遣いを読む力をみる問題であり、正答率は9割を上回った。基礎的・基本的な学習内容の定着がうかがえる。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、面白く思われた理由を選ぶ問題である。「1」や「3」を選んだ誤答が多く、正答率は約3割であった。(3)は、係り結びについての理解をみる問題である。「候」、「と」などを抜き出したものや、「一字」という指示を見落とし、「ける」、「なり」などを抜き出したものが多く、正答率は約3割であった。(4)は、文章の展開に即して内容をまとめる問題である。「この歌をよいと思っていた」という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約1割であった。文章全体の内容を見通して捉える力、条件に即して適切に表現する力を育成することが求められる。

④は、にしがき ようこの『ぼくたちのP』からの出題である。(1)は、文章の展開に即して、「勝ち目はない」の意味を捉える問題であり、正答率は約7割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率はAが約8割、Bが約7割であった。(3)は、文章の展開に即して、「おじさん」の心情を捉える問題であり、正答率は約9割であった。(4)は、文章の内容を捉えて、「ぼく」の気持ちの変化をまとめる問題であり、正答率は約3割であった。変化のきっかけについて言及せず、変化前と変化後の気持ちのみをまとめているために減点されているものが多かった。(5)は、表現の特徴を理解して、文章の内容を捉える問題であり、正答率は約5割であった。文章の構成や展開、表現の仕方について考えながら文章を読むことが大切である。

⑤は、森博嗣 (もり ひろし) の『読書の価値』からの出題である。(1)は、品詞の種類についての理解をみる問題である。「2」や「3」を選んだ誤答が多く、正答率は約4割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率は、Aが約7割、Bが約5割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、「ゼロの状態」についてまとめる問題である。空欄前後の内容を踏まえていないものや、傍線部直前の表現に着目しているものが多く、正答率は1割を下回った。(4)は、文

章の展開に即して内容を捉え、文章中の空欄に適する語を選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。(5)は、文章の内容として合っているものを選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(6)は、文章の内容を捉え、「本を読むこと」と「発想」の関係をまとめる問題である。「知識どうしが結びつく」という内容が不足しているために減点されているものや、文章全体の内容を踏まえていないものが多く、正答率は1割を下回った。文章に表れているものの見方や考え方について、書き手の論理の展開に即して適切に読み取る力が求められる。

〔6〕は、「仕事を選択するときの重要な観点」に関する調査結果をまとめたグラフから読み取った情報を解釈し、意見文を書く問題である。仕事を選択するときの重要な観点四つのうち、二つを比較して気づいたことを書いた上で、それを踏まえて自分の意見を書くという条件に即して論理的に書く力が求められるが、どちらか一方の観点のみに着目して書いたり、グラフから読み取った情報のみを書き、意見の提示が不十分だったりしたために減点されているものが多かった。資料や文章に対する自分の考えを書く場合は、読み取った情報と自分の意見を整理してまとめることが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の構成や展開、表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や、条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 国語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)						
〔1〕	(1)	3	話を内容を的確に聞き取る。	84.5	〔4〕	(1)	4	文脈の中における慣用句の意味を捉える。	69.2				
	(2)	4	話を内容を的確に聞き取る。	56.7		(2)	A	2	文章の展開に即して内容を捉える。	80.1			
	(3)	4	話の全体と部分との関係に注意して聞き取る。	73.6		(2)	B	2	文章の展開に即して内容を捉える。	70.4			
	(4)	4	発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる。	76.8		(3)	4	4	文章の展開に即して内容を捉える。	88.3			
〔2〕	ア	1	読	話を内容を的確に聞き取る。	芳香	68.7	〔5〕	(1)	4	品詞について理解する。	38.6		
					棄却	66.3		(2)	A	2	文章の展開に即して内容を捉える。	74.4	
					主宰	68.2		(2)	B	2	文章の展開に即して内容を捉える。	48.8	
					繕う	75.4		(3)	4	4	文章の展開に即して内容を捉える。	2.5	
	エ	1	字	話を内容を的確に聞き取る。	潰す	98.7	(4)	4	4	文章の構成や展開に即して内容を捉える。	67.8		
					書	学年別漢字配当表の漢字を書く。	鉄則	54.4	(5)	4	4	文章の展開に即して内容を捉える。	75.1
							汽笛	48.1	〔6〕	10	を意味文	資料から読み取った情報をまとめ、自分の意見を書く。	平均点 6.6
							根幹	34.7					
	率いて	84.4											
	委ねる	35.6											
	コ	1	字	話を内容を的確に聞き取る。	就く	86.4							
					丘陵	54.8							
	〔3〕	ア	2	漢字の知識	文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ。	就く	86.4						
						丘陵	54.8						
イ		2	知識	文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ。	就く	86.4							
					丘陵	54.8							
(1)	3	古文を読む	歴史的仮名遣いについて理解する。	97.6									
(2)	3	古文を読む	文章の展開に即して内容を捉える。	27.2									
(3)	3	古文を読む	係り結びについて理解する。	26.4									
(4)	4	古文を読む	文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	14.7									

社 会

①は、地図の活用、ヨーロッパ州の気候、産業、経済に関する問題である。(3)は、ローマと東京の雨温図を参考に、ローマの気候名と気候の特徴を適切に表現する問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、気候名に「西岸海洋性気候」を書いているものが多く、温帯の三つの気候についての理解が十分ではなかったと思われる。(4)は、フランスの食料自給率を品目別に表したものを選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、オランダを表した「3」が多かった。フランスでは農業が盛んであり、穀物の自給率が100%を超えていることについての理解が十分ではなかったと思われる。地図や資料を活用する地理的技能を身に付けることが大切である。

②は、九州地方の自然環境や、産業、環境問題対策、福岡市につくられた防災施設の機能に関する問題である。(1)は、日本の7つの地方の面積と人口の割合を表した資料から、九州地方について表したものを選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、中部地方を表した「b」が多かった。九州地方の特徴を理解した上で、他の地方との比較を通して、面積と人口の割合を考える力が必要である。(3)イは、環境問題の解決を通じて都市発展を目指す取組が認められ、国に選定された都市（環境モデル都市）を書く問題で正答率は約4割であった。誤答としては、「政令指定都市」が多かった。問われている内容を正しく理解した上で、知識と資料を活用して、思考・判断する力を高めていく必要がある。

③は、中世から近世までの日本と中国の交流や関わり、各時代の特色についての問題である。(4)は、鎖国をしている間、朝鮮との連絡や貿易を行った藩名（対馬藩）を書く問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、「薩摩藩」が多かった。鎖国下の対外関係についての理解が十分ではなかったと思われる。(5)は、中国から輸入されて、日本で使用された銅銭（永楽通宝）を選ぶ問題であり、正答率は約2割であった。誤答としては、寛永通宝を表す「2」が多かった。提示された選択肢から情報を読み取り、中国の時代と関連付けて考える力が十分ではなかったと思われる。日本と諸外国の歴史や文化との関わりに着目しながら、時代の移り変わりを捉えることが大切である。

④は、近代、現代の日本の政治、外交、国際関係についての問題である。(3)は、ワシントン会議に関する内容を選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「1 空軍の軍備を制限する条約が結ばれた」が多く、第一次世界大戦後の国際協調の動きについての理解が十分ではなかったと思われる。(4)は国際連盟と国際連合の常任理事国として共通する二つの国名（イギリス、フランス）を書く問題であり、正答率は約2割であった。誤答としては、「ドイツ」、「中国」、「日本」、「ソ連」が多かった。二つの世界大戦前後の国際関係についての理解が十分ではなかったと思われる。近代、現代については、国内情勢と外交関係を関連付けて理解することが大切である。

⑤は、国会の仕組みや働き、国民審査、内閣総理大臣の指名に関する問題である。(1)イは、衆議院と参議院が持つ政治全般について調査することができる権限（国政調査権）を書く問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、「違憲審査権」、「直接請求権」が多かった。国会の働きと、裁判所の働き、地方自治の仕組みとの区別についての理解が十分ではなかったと思われる。(5)は、三権分立について、適切に表現する力をみる問題であり、正答率は約7割であった。三権分立が、権力の集中を防ぎ、国民の権利や自由を守る考え方であることを適切に表現するものが多かった。学習内容が日常生活と深く関わっているという意識をもち、国の政治の仕組みに対する興味・関心を高めていく必要がある。

〔6〕は、金融の仕組みや働き、日本銀行の金融政策に関する問題である。(3)は、金融機関としてあてはまらないもの(消費生活センター)を選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、「4 農業協同組合」が多かった。さまざまな金融機関と消費生活センターとの区別についての理解が十分ではなかったと思われる。(4)は、銀行の貸し出し金利が預金金利を上回る理由について適切に表現する力をみる問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「税金がかかるから」、「利息がつくから」というものが多かった。銀行の仕組みについての理解が十分ではなかったと思われる。金融の仕組みについて、基礎的・基本的な内容を整理し、理解を深めることが必要である。

〔7〕は、ブラジルに関連する社会的事象についての、地理、歴史、公民の各分野に関する知識・理解を総合的にみる問題である。(3)は、焼畑農業において、木を切りたおして燃やす理由について、適切に表現する力をみる問題であり、正答率は7割であった。焼いてできた灰を肥料として活用することを適切に表現できているものが多かった。(4)は、BRICSと呼ばれる国として、あてはまらないものを選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。誤答としては、「4 南アフリカ共和国」が多かった。今日、急速に経済成長した新興国についての理解が十分ではなかったと思われる。

社会では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、問われている内容を正しく理解した上で、資料から必要な情報を読み取る力、知識や資料を関連付けて、思考・判断したことを適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 社会

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
1	(1)	2	世界の様々な地域	94.9	4	(1)	2	ベルサイユ条約	69.9
	(2)	2	白夜	85.5		(2)	2	サンフランシスコ平和条約	46.7
	(3)	3	ローマの気候と特徴	34.5		(2)	2	ドイツ	71.7
	(4)	3	フランスの食料自給率	55.1		(3)	2	第一次世界大戦後のドイツの経済状況	45.4
	(5)	3	ユーロ	98.0		(4)	2	ワシントン会議に関する内容	35.6
2	(1)	3	日本における九州地方が占める面積と人口の割合	47.7	(4)	2	国際連盟と国際連合で共通する常任理事国	19.9	
	(2)	2	シラス	75.0	(5)	2	占領終結後の日本の外交関係のできごと	61.7	
	(3)	2	シラスで盛んな農業	59.1	(1)	2	臨時会(臨時国会)	71.0	
	(4)	2	水俣病の原因	79.3	(2)	2	国政調査権	50.0	
	(5)	2	環境モデル都市	39.6	(3)	2	比例代表制	70.6	
3	(1)	3	日本と中国の交流やかかわりの並べ替え	52.5	(4)	3	国民審査	72.0	
	(2)	2	日本町	52.0	(5)	3	内閣総理大臣の指名と衆議院の優越	50.4	
	(3)	2	北条時宗	63.1	(1)	2	三権分立の理由	73.7	
	(4)	2	対馬藩	32.1	(2)	2	サービス	87.0	
	(5)	2	日明貿易(勘合貿易)で輸入された銅銭	20.8	(3)	2	直接金融	31.4	
	(6)	2	室町時代にえがかれた水墨画	50.2	(4)	2	金融機関の種類	34.1	
	(7)	1	清	44.9	(5)	3	貸し出しの金利が預金の金利を上回る理由	39.5	
4	A	1	明	58.8	(6)	3	中央銀行である日本銀行の役割	64.3	
	B	1	元	44.5	(1)	3	日本銀行の金融政策	63.4	
	5	(1)	2	現代の日本と世界	69.9	(2)	2	私たちの生活と金融	87.0
		(2)	2	国の政治の仕組み	71.0	(3)	2	ブラジルに関する問題	72.1
		(3)	2	臨時会(臨時国会)	50.0	(4)	2	リオデジャネイロのおよその経度	68.9
(4)		3	国政調査権	70.6	(5)	2	大航海時代にヨーロッパ人が大西洋に進出した目的	75.6	
(5)		3	比例代表制	72.0	(1)	2	焼畑農業で木を切りたおし燃やす理由	49.3	
5	(1)	2	国民審査	50.4	(2)	2	BRICSの国	96.0	
	(2)	3	内閣総理大臣の指名と衆議院の優越	73.7	(3)	2	グローバル化		
	(3)	3	三権分立の理由	87.0					
	(4)	2	サービス	31.4					
	(5)	3	直接金融	34.1					
6	(1)	2	金融機関の種類	39.5					
	(2)	3	貸し出しの金利が預金の金利を上回る理由	64.3					
	(3)	2	中央銀行である日本銀行の役割	63.4					
	(4)	3	日本銀行の金融政策	63.4					
	(5)	3	ブラジルに関する問題	72.1					
7	(1)	3	リオデジャネイロのおよその経度	68.9					
	(2)	2	大航海時代にヨーロッパ人が大西洋に進出した目的	75.6					
	(3)	2	焼畑農業で木を切りたおし燃やす理由	49.3					
	(4)	2	BRICSの国	96.0					
	(5)	2	グローバル化						

数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)は、全体的に正答率が高く、数と式についての基本的な計算に対する知識・技能は定着しているものと思われる。(2)は、文字を用いて数量の関係を不等式で表す問題であり、正答率は約6割であった。『2000円以下』を不等号で表すことができなかつたと思われるものが見受けられた。(3)は、式の値を求める問題であり、正答率は約7割であった。式に値を代入した後、符号を間違えたと思われるものが見受けられた。(4)は、二次方程式を解の公式を用いて解く問題であり、正答率は約7割であった。解の公式に値を代入した後の計算を間違えたと思われるものが見受けられた。(5)は、5本のくじから2人がくじを引くときの確率を求める問題であり、正答率は約5割であった。『少なくとも1人』がどのようなことか理解できなかつたと思われるものが見受けられた。(6)は、2つの水そうに入っている水を与えられた条件で移す時、移す水の量を比例式を使って求める問題であり、正答率は約5割であった。文章から読み取った条件を適切に比例式に表現できなかつたと思われるものが見受けられた。(7)は、三角形の内角と外角の二等分線との交点にできる角の大きさを求める問題であり、正答率は約5割であった。三角形の内角と外角の性質を十分に活用できなかつたと思われるものが見受けられた。(8)は、関数 $y = x + 6$ のグラフをかき、グラフから連立方程式の解を求める問題で、正答率は約6割であった。連立方程式の解と2つのグラフの交点との関係を理解できていないと思われるものが見受けられた。

②は、見通しをもって思考・判断する力をみる問題である。(1)は、三角形の頂点から垂線を作図する問題であり、正答率は約7割であった。与えられた条件を理解していない答案が多く見受けられた。(2)は、10人の生徒が輪投げを1人10回ずつ行ったときに成功した回数をまとめたものを見た2人の会話から、平均値などを求める問題であり、正答率はアは約5割、イは約3割であった。中央値と平均値の性質を理解していないと思われるものが見受けられた。

③は、観察、操作を通してその平面図形、立体図形の性質を読み取るなど、事象を論理的に考察し表現する力をみる問題である。(1)アは、三角形の合同の証明についての問題である。正答率は約3割であった。直角三角形の合同条件についての知識が十分に定着していないと思われるものが見受けられた。(1)イは、アの証明で明らかになった2つの三角形が合同であることを利用して正方形の1辺の長さを求める問題であり、正答率は1割であった。与えられた条件から二次方程式をつくることができなかつたと思われるものが見受けられた。(2)アは、円柱の表面積を求める問題であり、正答率は約5割であった。円柱の体積を求めたものや、立体を展開図に置きかえて捉えることができなかつたと思われるものが見受けられた。(2)イは、出発点と底面の周上を動く点から導かれる中心角と三平方の定理を利用して線分の長さを求める問題であり、正答率は1割を下回った。5秒後の $\angle AOP$ の大きさを求めることができなかつたため、APの長さから三平方の定理を利用して線分PBの長さを求めることができなかつたと思われるものが見受けられた。(2)ウは、点Pが1周する間に $OP \parallel O'Q$ となるのは点Pが動き始めてから何秒後かをすべて求める問題であり、正答率は1割を下回った。与えられた条件の時に $OP \parallel O'Q$ となることをイメージすることができず、そこから方程式をつくることができなかつたと思われ、無答や多岐にわたる誤答が見受けられた。(2)エは、点Pが1周する間の線分PQの長さの変域を求める問題で、正答率は㊦が約2割、㊧が約1割であった。PQの長さの最小値を0として考えているものや無答が多く見受けられた。

④は、放物線、双曲線及び一次関数のグラフをもとにして、一次関数の式、関数 $y = ax^2$ の変域やグラフ上での図形の面積などを求める力をみる問題である。(1)は、定数 a の値を求める問題で、正答率は約6割であった。点 B の座標を正確に求めることができなかったと思われるものが見受けられた。(2)は、直線 BC の式を求める問題であり、正答率は約5割であった。点 C の座標を求め、そこから2点を通る直線の式を求めることができなかったと思われるものが見受けられた。(3)は、関数 $y = ax^2$ の y の変域から x の変域を考える問題であり、正答率は1割を下回った。条件を満たす整数 n の値をすべて求めることができなかったと思われるものが見受けられた。(4)は、 $\triangle ACP$ の面積が $\triangle ACD$ の面積の5倍になるときの点 P の座標を求める問題であり、正答率は約1割であった。 $\triangle ACP$ 、 $\triangle ACD$ について AC が共通の底辺であることに気づけなかったと思われ、誤答は多岐にわたっており、無答が多かった。

⑤は、与えられた手順をもとに文集を作成するとき、記事の配置、ページ番号及び用紙の枚数の関係に規則性を見だし、名簿番号やページ番号を文字を用いて式に表す問題であり、数学的な見方・考え方を働かせて解決する力を見る問題である。(1)は、1組30番と3組1番の生徒の記事が掲載されるページを求める問題であり、正答率は約2割であった。生徒の記事の部分だけからページ数を考えていると思われるものが見受けられた。(2)アは、2組の生徒の記事が掲載されたページの配置について、名簿番号を x を使った式で表す問題であり、正答率は1割を下回った。誤答が多岐にわたっており無答も多かった。(3)は、 n 枚目裏のページ番号を n を用いた式で表す問題である。イは正答率は1割を下回り、ウは正答率は約1割であった。左右のページを逆に捉えていると思われるものが見受けられた。(4)は、ある用紙に書かれている2組の2人の名簿番号の関係から、条件を満たす用紙が何枚目の表か裏かになるのかを求める問題である。左右のページ番号の関係から、連立方程式を利用して条件を満たすページ番号を求めることができるが、求めたページ番号から何枚目の用紙かを導き出すことができなかったと思われるものや無答が多かった。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけではなく、数量や図形などに関して基礎となる原理や法則について理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)					
①	ア	数と式	正負の整数の計算 (加減)	③	4	図形	直角三角形の合同の証明	98.8	30.4			
	イ							イ		3	二次方程式の利用	10.0
	ウ							ア		2	表面積	52.4
	エ							イ		3	三平方の定理の利用	5.9
	オ							ウ		3	空間内にある2直線の位置関係	0.7
	(2)	エ	㊶		2	三平方の定理の利用	17.1					
	(3)	エ	㊷		2	三平方の定理の利用	9.8					
	(4)	エ	㊸		2	三平方の定理の利用	9.8					
	(4)	エ	㊹		2	三平方の定理の利用	9.8					
	(5)	エ	㊺		2	三平方の定理の利用	9.8					
(6)	エ	㊻	2	三平方の定理の利用	9.8							
(7)	エ	㊼	2	三平方の定理の利用	9.8							
(8)	エ	㊽	2	三平方の定理の利用	9.8							
②	ア	資料の活用	代表値	④	3	関数	関数 $y = ax^2$	47.2	55.1			
	イ							イ		3	一次関数	49.9
③	ア	資料の活用	代表値	⑤	3	関数	関数 $y = ax^2$ の変域	28.7	6.2			
	イ							イ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	6.2
	ウ							ウ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	6.2
	エ							エ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	6.2
④	ア	資料の活用	代表値	⑥	3	関数	関数 $y = ax^2$ の変域	47.2	8.9			
	イ							イ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	8.9
	ウ							ウ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	8.9
	エ							エ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	8.9
⑤	ア	資料の活用	代表値	⑦	3	関数	関数 $y = ax^2$ の変域	47.2	20.4			
	イ							イ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	20.4
	ウ							ウ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	20.4
	エ							エ		3	関数 $y = ax^2$ の変域	20.4

理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)アは、「外骨格」と答える問題で、正答率が高く7割を超えた。(1)イは、節足動物である昆虫類と甲殻類を選択肢から選ぶ問題で、正答率は約3割であった。選択肢2(①昆虫類：クモ、②甲殻類：カブトムシ)での誤答が目立った。(2)イは、カエルの生殖細胞が受精し、その後細胞分裂を繰り返していく過程において、1つの細胞に含まれる染色体の数について述べたものを選択肢とする問題で、正答率は約2割であった。誤答パターンは多岐にわたり、染色体の数についての理解がなされていない、または選択肢を正しく読解できなかったものと思われる。(3)はマグマからできた火山灰についての問題で、アは火山灰の色とマグマのねばりけの特徴を選択肢から選ぶ問題で正答率は約6割、イは火山ガスの主成分を問う問題で正答率は約2割であった。イでは「二酸化炭素」という誤答が圧倒的に多く見られた。(4)イは、寒冷前線での暖気の動きを記述する問題で、正答率は約4割であった。誤答としては、暖気の方が密度が大きいとするものや、暖気の動きを記載していないものなどが見られた。

②は、化学・物理分野の小問集合である。正答率が高かったのは(1)ア、(2)ア、(3)ア、(4)アであり、それぞれ約8割、7割、8割、8割であった。基本的な知識は習得できていると思われる。(1)イは、うすめたアンモニア水の密度を求める問題で、正答率は約1割であった。誤答としては、うすいアンモニア水の質量をうすいアンモニア水の体積で割ったもの、うすいアンモニア水が入ったビーカー全体の質量をうすいアンモニア水の体積で割ったもの、ビーカーの質量をうすめる前のアンモニア水の体積で割ったものなどが見られた。質量と体積の数値を適切に処理することができなかつたものと思われる。(4)イは、物体の質量とばねばかりの示す値をもとにして滑車の質量を求める問題で、正答率は約2割であった。動滑車を使って仕事をした場合のばねばかりにかかる力の関係を思考・判断することができなかつたものと思われる。

③は、植物の分類に関する問題で、知識を問う問題の正答率は高かった。(1)ウ②はスギゴケの仮根の役割を記述する問題で約6割、(2)アは、「単子葉類」と答える問題で約8割、(2)イは合弁花類と離弁花類のそれぞれの花卉のつくりの特徴を記述する問題で約7割であった。正答率が低かったのは、(1)イの、シダ植物の葉・茎・根の区別を問う問題で正答率は約3割であり、選択肢2(c:葉、d・e・f:茎、g:根)での誤答が目立った。(3)は、資料の内容を総合して植物を分類する力を見る問題で、正答率は約6割であった。体のつくりの特徴に基づいて植物を分類でき、植物の種類を知ることができることを理解できているものと思われる。

④は、炭酸水素ナトリウムに関する2つの実験を扱った問題である。正答率が高かったのは、(1)の実験1と2で発生した二酸化炭素の性質を問う問題で約9割、(2)アの炭酸水素ナトリウムの熱分解の実験操作における技能を問う問題で約8割、(2)イの「塩化コバルト紙」と答える問題で約6割であった。正答率が低かったのは、(2)ウの実験1の化学反応式を書く問題で約2割、(3)の炭酸水素ナトリウムと塩酸の反応における質量変化の規則性を問う問題で、ア、イともに正答率が約1割であった。一定質量の塩酸と反応する炭酸水素ナトリウムの質量には限度があること、また炭酸水素ナトリウムの質量を増加させても発生する二酸化炭素の質量が一定質量以上にはならないことを、実験結果から読み取ることができなかつたものと思われる。

⑤は、水中の物体にはたらく力に関する問題である。(1)アは物体の水中でのばねばかりの値を問う問題

で正答率は約5割であった。(1)イは水中で物体にはたらく重力の大きさを問う問題、(1)ウは物体の上面にはたらく水圧を問う問題で、ともに正答率は約2割であった。特にイでは、水面から物体の下面までの距離が2cmのときの浮力の値を求めたものや、水面から物体の下面までの距離が2cmのときのばねばかりの値をそのまま読み取ったものなどの誤答が見られた。(1)エは物体の深さと浮力の関係を表すグラフを選択する問題で約6割、(2)アは水圧の向きと大きさを矢印で適切に表したものを選択する問題で約7割の正答率であった。(2)イは水が入った容器の底面が物体を押す力を求める問題で、正答率は1割未満であった。

〔6〕は、地球から見た天体の動きに関する問題である。(1)は「恒星」と答える問題で、正答率は9割を超えた。(2)は11月の明け方に満月から7日経過した半月の観察記録を選択する問題で、正答率は約3割と低く、太陽と月の位置関係や月の運動と関連付けて考察することが難しかったと思われる。(4)は惑星の大気組成についてそれぞれの正答率は、地球の大気組成を問う①は約8割、②は約9割であったが、木星や土星など大気の主成分を問う③は約3割であった。③の誤答としては「二酸化炭素」が多かった。(5)は明け方に西の空に見えるおうし座を毎日同じ時刻に観察していったときに見える方の変化を問う問題で、正答率は約3割であり、太陽を中心とした地球の公転と関連付けて考察することができなかつたものと思われる。(6)は金星と火星の見え方に違いが生じる理由を記述させる問題で、正答率は約6割であった。金星の見え方には触れているが、火星については触れていないものや、地球との距離の違いなどについて書いている誤答が見られた。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え、事象を多面的にとらえて科学的に思考・判断し、その過程を含め、適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 理科

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)				
1	(1)	ア 2	節足動物	73.1	4	(1)	2	二酸化炭素の性質	92.7		
		イ 3	外骨格	29.9		ア 2	炭酸ナトリウムの分解	実験操作	82.1		
	(2)	ア 2	昆虫類と甲殻類	73.6		イ 2	塩化コバルト紙での水の検出	58.4			
		イ 3	胚	24.7		ウ 3	炭酸水素ナトリウムと塩酸の反応	炭酸ナトリウム分解の化学反応式	19.9		
	(3)	ア 2	生物の殖え方	24.7	ア 3	化学変化の前後における物質の質量	12.8				
		イ 3	染色体の数	57.3	イ 3	炭酸水素ナトリウムの純度	6.7				
		ア 2	マグマからできた火山	18.6	5	(1)	ア 2	水圧と浮力	物体の水中でのばねばかりの値	53.5	
		イ 3	火山灰の色とマグマのねばりけ	52.3					イ 2	水中で物体にはたらく重力の大きさ	17.9
ア 2	火山ガスの主成分	37.2	エ 3	物体の深さと浮力の関係					61.1		
イ 3	前線の通過と天気変化	80.5	ア 2	水圧の向きと大きさ					69.4		
2	(1)	ア 2	アンモニアの性質	80.5	(2)	イ 3	容器の底面が物体を押す力	2.3			
		イ 3	うすめたアンモニア水の密度	13.9				(1)	2	恒星	(1)
	(2)	ア 2	化学変化と電池	72.7	(2)	月の観察記録	26.4				
		イ 3	電池になる金属板の組合せと水溶液	48.4	(3)	金星の位置	46.2				
	(3)	ア 2	電磁誘導と発電	77.0	6	(4)	1				太陽系と恒星
		イ 3	電磁誘導	54.4				②	惑星の大気組成	88.8	
		ア 2	仕事の原理	84.4				③	惑星の大気組成	34.2	
		イ 3	仕事の原理	24.6				(5)	3	星座の年周運動	
3	(1)	ア 2	胎子のう	46.7	(6)	3	金星と火星の見え方	56.6			
			シダ植物のからだのつくり	31.1							
			スギゴケの仮根の名称	59.5							
			スギゴケの仮根の役割	55.1							
	(2)	イ 3	植物の仲間	単子葉類	76.1						
				合弁花類と離弁花類	67.2						
				植物の分類	59.9						

英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語の説明と質問を聞いて適切な絵や英語を選ぶ問題である。アの正答率は9割以上、イの正答率は約3割、ウの正答率は約5割であった。イは、午後にするべきことの順番を正確に聞き取ることが難しかったようである。(2)は、外国語指導助手の話聞いて質問に答える問題である。ア、イの正答率は9割以上、ウの正答率は約7割であった。(3)は、対話と質問を聞いて適切な応答文を選ぶ問題である。アの正答率は約6割であり、「～を試着する」の意味である「try ~ on」の知識が定着していない受験生が多かったようである。イの正答率は約8割であった。(4)は、留学生の話と質問を聞いて英語で答える問題である。誤答例として「I favorite subject is English.」のように、代名詞の使い方が不適切なものが多く見受けられたが、無答は少なかった。話の内容を正確に捉え、適切に応じることができていたようである。正答率は約8割となり、高い正答率であった。

②は、日本のある市の観光案内所での日本人の係員と外国人旅行者との対話を題材とした問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語を並べかえる問題である。アの正答率は約5割、イの正答率は約6割、ウの正答率は約8割であった。アは、「There + be 動詞 + ~」の文構造の疑問文を作る問題であるが、疑問文にする際の語順を意識していないものや、形容詞の「any」の理解が十分でないものも多く見受けられた。イは、英文とパンフレットの内容から状況を読み取り、その状況に合うように、「It + be 動詞 + ~ (+ for ~) + to 不定詞」の文構造を使って英文を完成させる問題であるが、語順の理解が不十分なものも多く見受けられた。ウは、「主語 + will + be 動詞 + 過去分詞」の形を用いる問題である。未来表現と受け身の、二つの文法事項が組み合わされていたが、正しく解答できているものが多かった。(2)は、対話の流れから「near」の反意語である「far」を空所に入れる問題であったが、無答や「near」「long」を答えとしたものも多く、正答率は約1割であった。(3)は、「楽しかった。またこの市に来たいです。」という感想に対する返答を英語で書く問題である。適切な返答を書いている答案は少なく、対話文の内容を十分理解しないで書いた文や、単語の綴り間違い、そして前置詞を始めとした単語の欠落が多く見受けられた。対話の流れを正確に把握し、状況に応じて適切に英語で表現する学習を普段から継続して行っていくことが大切である。

③は、日本に留学している外国人の生徒と部活動の顧問との間でやりとりされた電話の応答を題材とした問題である。(1)は、電話での応答が成立するように英文を書く問題であり、対話の流れをよく理解することが求められる。ア、イの正答率は約3割、ウの正答率は約2割であった。アは、ほとんどの答案で「Why」を使用して表現していたが、それに続く動詞の部分で、be 動詞や一般動詞の区別ができていない答案が目立っていた。イは「～へ行ったことがある」という現在完了の定型表現を用いた疑問文を書かせることをねらいとしていたが、「have been to ~」の定型表現や疑問文の語順が定着していないものも多く見受けられた。ウは「It will leave at ten twenty.」が正解であるが、「at」が欠落している答案や、無答が多く見受けられた。(2)は、電話での応答が成立するように最も適切な英文を選ぶ問題である。Aの正答率は約6割であり、空欄の前後を手がかりにして正しい答えを選ぶことができていたものと思われる。Bは約9割の正答率であり、対話の流れを十分理解できていたようである。全体としては、対話の内容把握に加え、英文で正しく表現できるよう基本的な文法事項に関する知識、理解を今後もより高めていく必要がある。

④は、カナダでの2週間の語学研修を終え、帰国後に、英語の授業で行った生徒のスピーチを題材とした問題である。(1)は、スピーチの内容と合うように、適切な日本語や数字を書く問題である。ア、イの正答率は約9割、ウの正答率は約7割であった。ウは、英文中の「under the sea」を日本語で表現できるかがポイントであった。(2)は、英問英答の問題である。1の正答率は約4割、2の正答率は約4割、3の正答率は約2割であった。1は、英文の内容をきちんと把握しなければ、反対の内容を答えてしまうことになり、そのような答案が多く見受けられた。2は解答の根拠となる部分を把握できればきちんと解答できるが、表現する際に、動詞や名詞を欠落させるなど英語の基本構造を理解できていないものも多く見受けられた。3は、解答となる部分を抜き出せていたが、本文中の代名詞を名詞に直すことや、3人称単数現在形の「s」が欠落している誤りが多く見受けられた。(3)は日本文を英語で書く問題である。1、2の正答率はともに1割を下回った。どちらも日本語と英語の文構造の違いや be 動詞と一般動詞の使い分けに関する理解が十分ではなく、英語で表現できなかつたと思われる。基本的な文法事項を適切に組み合わせて、表現する力が大切である。

⑤は、高校生が父親の友人の外国人と将来の生き方について話した内容を題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合うように英文を完成させる問題である。アの正答率は約6割、イ、ウ、エの正答率は約4割であった。本文の内容理解が不十分であり、必要な情報を短時間で長文の中から見つけ出すことができなかつたようである。(2)は、本文の内容と合うように適切な語を選び、英文の要約を完成させる問題である。ア、イの正答率は約4割であり、ウは約5割であった。本文の一部ではなく、内容全体から話の流れを捉えて、適切な語を選択することが求められる。(3)は、下線部が表している内容を日本語で具体的に書く問題である。正答率は約1割で、無答も多く見受けられた。下線部の「own」「purpose」「ways」等の意味の理解が十分でなかつたことに加えて、下線部に対応する本文の内容を理解し、日本語で表現することが難しかつたと思われる。「purpose」「ways」に相当する内容を一部しか解答していない答案が多く見受けられた。

英文全体の流れをつかみながら要点を見つける力や、段落の構成やつながりを意識して英文を読み進めていく力を育成することが望まれる。

問題別正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
①	ア 3 イ 3 ウ 3	英文と質問を聞いて、答えとして適切なものを選ぶ。	96.5	④	ア 2 イ 2 ウ 2	スピーチの内容と合うように、適切な日本語や数字を書く。	88.0		
			32.7				95.0		
			51.7				69.1		
	ア 3 イ 3 ウ 3	英文と質問を聞いて、答えとして適切なものを選ぶ。	94.8		1 3	44.5			
			90.3		2 3	40.3			
			69.1		3 3	23.1			
	ア 3 イ 3	対話と質問を聞いて、適切な応答文を選ぶ。	55.7		1 3	4.7			
			78.0		2 3	2.8			
	(4)	3	英文と質問を聞いて、適切な英語で答える。		77.6	⑤	ア 3 イ 3 ウ 3	本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	64.4
	(1)	ア 2 イ 2 ウ 2	意味が通るように語を並べかえて、There+be動詞の文構造の疑問文を含んだ英文を完成させる。		49.6				イ 3 ウ 3 エ 3
55.1				35.4					
75.8				44.5					
(2)	2	対話の流れを理解して、空所に入る適切な英語を書く。	14.3	ア 3 イ 3 ウ 3	本文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。		43.8		
(3)	6	自分の返答を15語以上の英語で書く。	2.6				43.7		
③	ア 3 イ 3 ウ 3	電話の応答を読み、空所に入る適切な英文を書く。	26.5	(3)	4		下線部が表している内容を日本語で具体的に書く。	7.2	
			33.8					19.1	
			19.1		64.7				
	A 2 B 2	電話の応答を読み、空所に入る適切な英文を選ぶ。	64.7		86.4				
			86.4						